

教えてドクター 9

がんけんけいれん
—眼瞼痙攣—

まぶたがピクピク痙攣する眼瞼痙攣。
類似疾患には、眼瞼ミオキミア、
顔面痙攣があります。



まぶたがピクピクする 眼瞼痙攣

眼瞼痙攣は、一般的に眼瞼(まぶた)がピクピク痙攣する病気と思われがちですが、眼輪筋の攣縮(れんしゆく)により上下の眼瞼が硬く閉じてしまい、自分の意志で開瞼しようとしても容易にできなくなる病気です。

本態性眼瞼痙攣は、1・2で女性に多く、両眼性で、40〜50歳以上に多くみられ、約数十万人の人が悩んでいます。

初期の症状として、まぶしい、目を開いていることがつらい、目が乾く、しょぼしょぼつとつとしいなど、非常に強く目の違和感、不快感を訴えるのが特徴で、瞬目過多(まばたきが多い)がみられます。多くはドライアイや眼精疲労として診断されていることが多いです。

さらに症状が進むと、視力が悪くないにもかかわらず、閉瞼したまま開瞼できず、歩行中に人や電柱にぶつかったり、階段が怖くなるなど歩行中の障壁が目立ち、さらに生活上かなりの困難に直面するのが特徴です。

眼瞼痙攣は、放っておいても自然に治ることは稀です。治療は、症状を抑えるための対症療法、抗痙攣薬、睡眠薬、精神安定薬などの薬物療法、神経ブロック、手術などがあります。

現在は、神経から筋肉への伝達を阻害する働きがあり、筋肉を弛緩させる作用があるボツリヌス毒素の注射が主流です。極少量だけ注射することによって症状を軽くすることができますが、1回の注射の効果の持続は、3〜4ヶ月で、再投与する必要があります。

(眼瞼痙攣、片側性顔面痙攣に対するボツクス療法は、所定の研修及びボツクス使用の認定を受けた医師のみしか施行できません。)

片眼の下がピクピクする 眼瞼ミオキミア

過労や睡眠不足などを契機に、眼輪

筋の一部が限局的に弛緩、収縮を繰り返し、眼瞼がピクピクして、あたかも虫が走るように動きます。しかし、決して他の筋肉に拡大しないのが特徴です。年齢には関係なく、片眼の下まぶたに発症することが多く、パソコンなどの近業の過労働、人前に出たり緊張すると誘発されます。通常は数日から数週間で治ることが多いです。

パソコンや近業など目を酷使する生活の改善、十分な睡眠、ホットパック、マッサージ、ビタミンB12配合の眼精疲労の点眼薬などが効果的です。

顔全面がピクピクする 顔面痙攣

最初は、片眼の目の周りがピクピク痙攣し、徐々に同じ側の額、頬、口、顎など顔全面の筋肉に痙攣が広がります。40歳以上の女性に多く、精神的緊張で症状が悪化します。

原因は、顔面神経が血管に圧迫されていることが多く、手術が根治治療ですが、高齢者が多いためボツリヌス毒素の注射が主流となりつつあります。



医学博士 川久保 洋 先生

1959年生まれ。川久保眼科院長
さいたま市立病院眼科医長
駿河台日大病院眼科外来医長を経て、
現在に至る。
駿河台日大病院眼科兼任講師
日本眼科学会専門医。

川久保眼科

眼科、日帰り白内障手術、オルソ・ケラトロジー(角膜矯正療法)、
ボツリヌス毒素治療、コンタクトレンズの処方



※JR浜東北線浦和駅東口よりバス10分。「太田窪」バス停徒歩2分。

- 診療時間 午前 9:00~12:00 午後 14:00~18:00
- 休診日 日曜祝日、土曜午後、および第1・2金曜日午後

川久保眼科

〒336-0936 さいたま市緑区太田窪3-8-3-2F

TEL: 048-885-5422 FAX: 048-885-5422 kawakuboeye.webmedipr.jp